“やってみる”の実現に向けて⑥

※“やってみる”とは、次の取組みのことです。
①課題解決に繋がる取り組みを小さくてもいいので実行する。
②地域を支える活動が継続できるよう、やり方を見直してみる。

地域支援員新聞
12月号
2020.12.10

班ごとの「防災マップ」作成中☆　天水越集落

天水越集落では、少ない人数でも暮らしやすい地域づくりにおいて、**〈被災時は、住民同士の繋がりや備えが助けになる〉**という考えのもと、班ごとの「防災マップ」の作成と自主防災組織体制の見直しを始めています。11/24～12/2 にかけて、班ごとの話し合いをさせていただき延べ 63 名にご参加いただきました。

防災というテーマについて、役員協議ではなく、暮らしの一番身近な集団である班ごとに話し合いを行ったからこそ出された声がいくつもあるように感じています。

今後は、班ごとの意見をまとめたものを班長会で協議し、「班ごとの防災マップ作成」と「集落としての自主防災組織のあり方検討」について、年度内を目途に話し合いをまとめていく予定です。

※以下、被災前に知っておきたいことの意見を抜粋してご紹介します。

〇個人として知っておきたいこと
- 自宅待機と避難所への移動の判断のタイミング。
- 自分にとって必要な防災バッグの中身や寝室の安全確保。

〇班として共有しておきたいこと
- 避難所に移動する前の、班ごとの集合場所を決める。
- 班内の要支援者についての状況把握や、必要な支援。

〇自主防災組織（集落）として共有しておきたいこと
- 被災時の避難所開設のタイミングや安全確認、運営方法。
- 要支援者や季節ごとの寒暖の差等に配慮した避難所運営。

芸術祭新聞☆北川フラム塾　松之山地区

松之山地区と黒倉集落では地域有志が「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ 2021」に向けて、作品誘致の話し合いを重ねてきました。現在は作品誘致可否の結果を待っているところです。

結果を待っている間にも芸術祭作品誘致の機運を持続できるようにと、「芸術祭新聞」を発行しています。

作品誘致の可否に関わらず、知っていると次回からの芸術祭がより楽しめるような、芸術祭にまつわる様々な情報を掲載しています。

地区外の方でも読んでみたい方は、支援員までお問合せください☆

芸術祭新聞　11月号　2020.11.10.　松之山地区

松之山地区では、二つの団体（松之山地区若手有志、黒倉集落）が、「大地の芸術祭 2021」の作品誘致に取り組んでいます

作家の最終選考が行われています☆

2021 年度の大地の芸術祭開催に向けた、北川フラム氏による作品候補地の視察は終わりました。松之山地域においては、地域有志が作品候補地を案内させていただくことができ、作品誘致への地域の想いを北川氏に直接届けることができました。

現在は 413 の応募の中から作家の最終選考が行われています（10/22 現在）。北川氏は「アートによる地域づくり」のための観点から、地域と作家とのマッチングをされています。

選出作家は年内にすべて決定する予定です。作家の選考が終わりしだい、作品候補地には、作品誘致の可否の連絡が入ることになっています。

北川フラム塾☆地域芸術祭のつくられ方　次回開催は 12/1(火)

北川フラム塾とは、大地の芸術祭のこれまでとこれからについてを学ぶ、勉強会です（主催：アートフロントギャラリー）。現地活動による学びの場もあります。

会場は東京ですが、十日町市内でもオンライン受講ができるため、作品誘致の取り組み支援のための研修として、地域支援員が受講しています。

これまでに説明会 1 回（7/15）と勉強会 2 回（8/12、10/6）が行われ、来年度までにあと 5 回開催されます。

地域有志による 2021 年の取り組みに向けて、フラム塾の内容や芸術祭の取り組みについて、少しずつご紹介させていただきます。

※オンライン受講はどなたでもできます。詳しくは大地の芸術祭公式 HP をご覧ください。

北川フラム塾がはじまるきっかけとなった☆こへび隊再起動

こへび隊は、芸術祭のはじまりの年に生まれた、サポーターチームです。

大地の芸術祭もこへび隊も、もともとあったのは、「越後妻有地域のためになることをしたい」「お年寄りを助けたい」という想い。しかし年月を重ねる中でマンネリ化したり本来の意図が見失われてしまってきたことから、その在り方を今一度問い直すために、北川フラム塾が開催されることになりました。

北川氏は「こへび隊再起動説明会（7/15 開催）」の最後を次のような言葉で締めくくっています。
『今日この場がそうだったように、皆さんのご意見を伺いながら、原点に帰ってやっていきたい。「再起動」はもう始まっていますが、これからが正念場でもあります。来年の開催に向けて、そしてより長期的なビジョンに向けて、「大地の芸術祭」は、こへび隊やサポーターの皆さんとともに、前進していくことを目指します。』
（大地の芸術祭公式 HP 記事より一部抜粋）

2020 年芸術祭開催時のポスター

芸術祭新聞　12月号　2020.12.10.　松之山地区

松之山地区では二つの団体（松之山地区若手有志、黒倉集落）が、「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ 2021」の作品誘致に取り組んでいます

第二回　北川フラム塾☆地域芸術祭のつくられ方

次回開催は 12/1(火)

※オンライン受講はどなたでもできます。詳しくは大地の芸術祭公式 HP をご覧ください。

北川フラム塾から見えてくる☆大地の芸術祭の背景にある“想い”

・ヒルサイドテラス
・市町村合併
・芸術祭における松之山
・芸術祭とアーティスト
・大地の芸術祭
・2021 に向けて

※「芸術祭新聞」は、ポータルサイト松之山ドットコム「自治振興会からのお知らせ」にも掲載しています。

※「北川フラム塾」は、2000 年から始まった大地の芸術祭について、これまでの 20 年間を振り返りつつ、これからの在り方について芸術祭に関わるみなさんと共有していきたい知識や想いについて、開催当初からの総合ディレクターである北川フラム氏から直接学べる講座となっています。どなたでも参加できます。詳しくは「大地の芸術祭　北川フラム塾」で検索してください☆

松之山の土砂災害に対応した 農村コミュニティにおける地域知の適応☆

長岡技術科学大学　環境社会基盤工学専攻 防災復興システム工学研究室

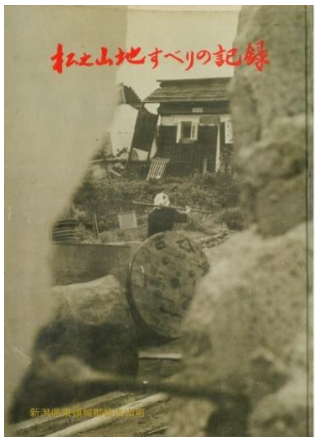
７月から、長岡技大博士課程学生の調査について、地域との調整に協力させていただいています。

研究テーマは表題のとおりで、土砂災害が発生しやすい地域における農地や農業技術などの継承がどのように行われてきたのかを明らかにすることです。

また、留学生である学生は、前年に母国であるスリランカの地すべり発生地域についても同様の調査を行っており、最終的には日本とスリランカの調査結果の比較研究を目指しています。

学生はこれまでに「松之山町史」や「松之山地すべりの記録」などの地域資料を読み込んだ上で、松之山地すべりは当時全国に類を見ない大規模災害であったこと、その際に生み出された地すべり防止工法が現在も受け継がれていることなどを踏まえて、聞取りやアンケート調査などを行ってきました。

調査にご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。報告書が届きましたら、改めてご報告させていただきます。　※報告書は年明けの３月までに届く予定です。



“地域おこし協力隊”の受入れ☆しませんか？

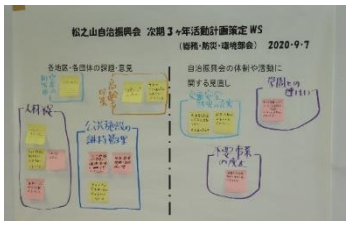
災害や社会情勢の変化のたびに、都市部から農山村への移住希望者が増える傾向が見られますが、松之山地域は農業を軸にした暮らしを望む方のほか、「小中一貫校　まつのやま学園」という教育環境の魅力から、子育て世代の移住希望者にとって関心の高い地域となっています。

また、人口減少に伴う地域課題が少なくない松之山地域においては、人口維持や担い手確保、各分野における次世代育成の観点から、移住者の受入れが望まれています。

松之山を選び住みたい方が移住できることや魅力ある松之山暮らしを未来に繋ぐことの一手として、地域内への地域おこし協力隊の受入れが期待されています。

受入れ体制づくりについて、話し合いのお手伝いをさせていただいています。お気軽にご相談ください。

地域自治推進計画（3か年計画）作成中☆　松之山自治振興会



11月に開催された３部会から出された「地域や団体が抱えている課題」「自治振興会の課題」をもとに、12/19（土）、事業計画や予算について各部会案を協議します。次の三か年（R3～5年）の地域課題に対応しやすい事業や組織のあり方について協議を重ねています。

今後は理事会協議を経て市への報告を行う予定です。

お問い合わせ

十日町市役所松之山支所地域支援員　本山・佐藤

☎　596-3131/FAX　596-3515